

東北ハイテク研究会

ニュースレター (No.20 2018.6)

(東北食農ネットワーク T-FAN)



東北食農ネットワーク” T-FAN” 第20号をお届けします。
第20号では、平成30年度から東北ハイテク研究会の新メンバーとなりました小巻克己中核コーディネーターと星信幸専門型コーディネーターをご紹介します。

東北ハイテク研究会 新コーディネーター (CD) について

小巻 克己 - 中核コーディネーター



小巻 克己 CD



小巻さんが育成に関わったクイックスイート

◆2018年4月から東北ハイテク研究会の新たな中核CDになられた小巻克己さんは、さつまいも育種の専門家です。電子レンジでチンして家庭で手軽に焼き芋ができる「クイックスイート (農林57号)」などの品種を育成しました。

1979年の農林水産省入省以降、一貫してさつまいもの育種研究に取り組み、数々の研究成果を実現し1996年には日本育種学会賞を受賞しています。その後、2001年からは内閣府の総合科学技術会議に移り、以後研究管理者としての道を歩まれることとなりました。2011年には農研機構東北農業研究センター所長、2014年からは福島県農業総合研究センター所長として東北農業、福島農業の発展に助力されました。

◆2018年に福島県農業総合センターを退職し、永住の地を郡山に決めて東北農業の発展に関わる活動を継続しています。現在は、日本いも類研究会会長、日本特産農産物種苗協会、日本いも類振興会理事としても活躍しています。

東北農業を支える新たな農産物として「さつまいも」の普及に貢献していただけることを強く期待しています。

星 信幸 – 専門型コーディネーター



星 信幸 CD

低コスト大規模水田営農の手引き

平成26年3月

宮城県農業・園芸総合研究所
宮城県古川農業試験場

星さんが中心となってまとめた低コスト大規模水田作経営のマニュアルは津波被災地域の新たな経営の誕生に大きく貢献

◆星さんは、水田作に関わる技術指導、生産組織の育成などの普及経験を活かしながら、宮城県古川農業試験場において水稻直播栽培を中心とした水田輪作の体系化に関わる研究に従事され多くの研究成果を実現してきました。

◆宮城県沿岸地域の農業に壊滅的な被害をもたらした東日本大震災からの復興では、震災後に誕生した大規模水田作経営の展開を支える直播技術、省力化技術の開発研究に従事され、「大規模水田営農モデル」の技術指標、経営管理指標を整理して宮城県沿岸地域で急速に発展している大規模水田作経営の展開を支えました。

◆宮城県を2018年に退職後は、全農 耕種総合対策部東北営農資材事業所 技術主幹として活躍されています。